

遊びの心



子どもは遊ばせないと、自立と社会性とか大切なものが育たないということを書いてきま

今月の花「ヤマトリカブト」

十月の花「ヤマトリカブト」



ヒガンバナも、このヤマトリカブトも美しい花ですが、共に有毒植物です。アイヌの人達が、この仲間の根の毒を矢にぬって熊をうったといわれるほど強い毒です。トリカブトの仲間(属)は日本、なかでも北日本では種類が多く、その区別がむずかしいグループです。「トリカブト」といわれる花が、花屋さんで売られていることがありますが、これは古くから栽培されているヤマトリカブトに近い種です。

都留文科大学教授

森江 晃三

した。

遊びとは、子どもが「何々をする。」という課題がないのです。自分でやりたくてするものです。だから夢中であるもの、止められても、止められてもどうしてもやりたいものが遊びであると思います。同じ絵をかくのでも自分で絵をかきたいという気持ちがあつてかくのが遊びなのです。保母さんが「お絵かきしましょう。」といつてかいたのは遊びとはいえません。それは子どもがやりたいという心がないからです。幼児が何かをやりたくて、やりたくてたまらない心はどのようなに

したら育つのでしょうか。それは多くの子どもと遊ばせることによって育つのです。そこで幼児の遊び方の発達について書いてみます。ある外国の学者は次のように書いています。

- (イ) なにもしていない。
- (ロ) ほかの子の遊びを見ている。
- (ハ) 一人遊び。自分だけで遊ぶ。
- (ニ) 平行遊び。他の子どもと同じように遊んでいるが、交渉がなく独立している。
- (ホ) 連合遊び。他の子と一緒に遊ぶがまだ役割がない。
- (ヘ) 関係遊び。一つの目的をもって、グループをつくり、仕事の役割をもっている。たとえば「あなたとおとうさんよ。」

「わたしはおかあさん。」というようにしてママごと遊びをする。

年齢が増加するにつれて(ホ)のような遊びができるようになりま

す。団体遊びができるのは四歳位いからです。

ですから子ども会には四・五歳位いから入って活動することができるといえます。

ただ遊ばせないと、いつまでも一人遊びしかできない子になることもあります。

◎子どもの事で心配なことがありましたら教育相談室へ電話をください。

教育相談室 (43)1111

内線 214

小山田左兵衛尉信茂 (下)

武田晴信に重く用いられたという弥三郎が参加した戦いの話に移りましょう。

弥三郎は永禄九年に信茂と名を改めるのですが、便宜上、これから信茂と書きます。

信茂が領主を継いだ頃は、武田の勢力拡大期であったために、少年ながら早くからの参戦を余儀なくされました。

はじめに文献に見られるのは、天文二三年駿河での北条・今川の戦いに、今川軍の援軍として参加したという甲陽軍鑑の記録です。

この年まもなく甲駿相三国同盟が成立し、北条・今川への心配がなくなると、晴信の信州での戦いは一段とはげしくなります。越後の上杉政虎(謙信)と前後五回にわたる川中島を舞台とした勢力争いです。このうち、弘治三年には信茂が信州の陣にあったことを妙法寺記が記録しています。

第三回の川中島の戦いがあった年です。川中島の戦いに参加したとみられています。

永禄二年、晴信は信玄と名を改めています。史上最も有名な信玄・政虎両雄相まみえでの、永禄四年八幡原での第四回川中島の戦いは、甲陽軍鑑は信茂の参戦を記していますが、妙法寺記は、はっきりと「弥三郎殿は御立無候」と記して、史料の価値から信茂は不参加と判断されています。しか

小山田シリーズ

小山田左兵衛尉信茂

し、同記は「人数ばかり立候へ共横入れをなされ入くずし近国へ名を上げ候」とあって、家臣が郡内勢を率いて参戦したことを記しています。キツキツ戦法の裏をかかれ、苦戦に落ち入った武田軍でしたが、妻女山から駆け戻った郡内勢の側面攻撃で形勢逆転したという、郡内勢の面目躍如たる戦いでした。

甲陽軍鑑に見えるその他の戦いとしては、永禄一二年の滝山城(八王子市)、小田原城(小田原市)攻め、同一三年葦山(葦山町)攻め、元龜三年の三方が原(浜松市付近)の戦いへの参加があります。いずれも大戦ですが、記録されない戦いも数多くあったと思われま

す。このうち、滝山城攻めは信茂が総大将で、二倍を越える北条勢を破り、大いに名をあげています。

また、京をめざした三方が原の戦いでは、先方衆第一線中央部にあつて、徳川軍と真向から対戦し、家康を浜松城に逃げ込ませるといふ大勝利をおさめたのでした。

信玄は小山田郡の大功をたたえて、勝ちどきの発声を信茂に与えた。新田次郎の『武田信玄』は記しています。

しかし、このあと間もなく信玄は病に犯され、西上戦は中止されたのでした。